

日本生物教育学会第 93 回全国大会～釧路湿原大会～ 実施報告

実行委員長 生方 秀紀（北海道教育大学釧路校）

「日本生物教育学会第 93 回全国大会～釧路湿原大会～」は、2012 年 8 月 18 日（土）・19 日（日）の 2 日間にわたり、北海道教育大学釧路校および釧路湿原を会場として実施された。

これまで、本学会の夏の大会は研修会主体で会員による研究発表は組み入れられないことが通例であったが、今回は全国からの参加者に学んでもらうだけでなく、研究交流や意見交換を通して相互に知識を高めあうことも目的に掲げ、口頭発表、公開シンポジウム、さらには中学・高校生によるポスター発表、地元自然史関係者によるパネル展示も組み入れた。また、研修は、釧路湿原を一周しながらの、湿地保全管理の専門家と植物相調査の専門家によるダブル解説を主眼とし、適宜講師への質問も可能な形態とした。

大会初日の 18 日には、午前 8 時 30 分から会場の釧路校教室棟で受け付けを開始し、9 時 30 分からの 502 講義室での開会式では、生方秀紀実行委員長による開会宣言に続いて、米澤義彦学会会長が開会挨拶に立ち、この大会を開くことの意義を述べられた。引き続き 9 時 45 分から 12 時 35 分までの研究発表では、途中 20 分間の休憩を挟み、10 件の口頭発表がなされた。研究発表の内容は、生命論、生物地理、遺伝子の地理的分化、繁殖生態といった基礎研究から、身近な動植物の教材化、自然林の復元、生物多様性や環境倫理の学習まで多岐にわたり、質疑応答も活発に行われた。



開会を宣言する生方秀紀実行委員長。



開会式で挨拶する米澤義彦学会会長。



研究発表（1）。



研究発表（2）。



中学生・高校生ポスター発表。



地元自然史パネル展示。



公開シンポジウムで挨拶する神田房行センター長。



公開シンポジウムで講演する蛭田眞一教授。



公開シンポジウムで講演する齋藤慶輔所長。



公開シンポジウムのパネル討論。

昼食後の午後1時から2時まで、図書館棟一階ロビーにおいて、中学・高校生によるポスター発表5校6件（発表者11人：教員5校5人、生徒2校6人）と地元自然史関係者によるパネル展示14件（発表者15人）が行われ、参加者との間で積極的な質疑応答・研究交流が行われた。

午後2時から5時10分まで行われた公開シンポジウム「生物多様性と教育：釧路湿原から考える」では、米澤会長と、大会を共催した釧路校 ESD 推進センターを代表して神田房行センター長が、それぞれ挨拶に立ち、基調講演とパネル討論を通して生物多様性の教育についての認識が深まることへの期待感を表明した。引き続き、コーディネーター役を務めた生方実行委員長の司会のもとで、釧路校の神田教授、蛭田眞一教授、および猛禽類

医学研究所の齊藤慶輔所長による基調講演が行われ、釧路湿原における生物多様性の現状とその保護への取り組みが紹介された。最後に、フロアからの質問・意見も組み入れたパネル討論が行われた。公開シンポジウムには一般市民 17 人も参加し、大会参加者 34 人と合わせて約 50 人の参加があった。

18 日の午後 7 時から釧路市内の会館で懇親会が行われ、シンポジウムの講師 3 人を含む参会者の間で、なごやかな懇談が繰り広げられた。

34 名が参加した現地研修会は、大会 2 日目（19 日）の午前 8 時 30 分～40 分に釧路市内 2 カ所の集合場所を出発する貸切バスと、伴走する実行委員の乗用車 3 台で、湿原を時計回りに約 100 km の経路に沿って実施した。講師は、新庄久志氏（釧路国際ウェットランドセンター主任技術委員）および高嶋八千代氏（道東野生植物調査会 代表）の二人で、いずれも釧路湿原のこの分野の第一人者である。最初の立寄地、北斗展望台では、釧路湿原を見下ろしながら、湿原の成り立ちや植生の区分などの解説がなされた。次に、温根内（おんねない）ビジターセンターを基点に湿原内に張り出した木道の上をゆっくり歩きながら、2 人の専門家から湿原の植生や保全管理について詳細な説明を受けた。参加者からは新鮮な驚きの声や講師への質問が寄せられた。木道での約 1 時間半の観察の後は、ビジターセンターでの少し早目の昼食で、参加者間の和やかな交流も見られた。



現地研修会、北斗展望台で集合写真。



現地研修会（温根内木道）、高嶋八千代講師（右）。



現地研修会（温根内木道）、新庄講師（中央左）。



現地研修会（コッタロ湿原展望台）、手付かずの自然が眼前に広がる。



現地研修会、自然再生事業地説明板を用いて説明する新庄講師。



現地研修会、自然再生事業地で発見した新鮮なヒグマ足跡。



釧路市立博物館学芸員特別解説、土屋学芸員（左）。

午後は、バスの窓越しに農地で餌をあさるタンチョウの姿なども見ながら、コッタロ湿原第一展望台に移動、そこから原始のままの姿を残す湿原を見下ろしながら、講師の説明に耳を傾けた。その後、湿原を横断する道路を通って、茅沼（かやぬま）の自然再生事業地へ移動した。ここは、農地化のために直線化された釧路川の流路の一部を元の蛇行河川に戻して3年目になる場所である。蛇行に戻した後の、土砂堆積や植生変化の様子を、講師の解説を受けながら観察した。その川辺の泥土でヒグマの新鮮な足跡が見つかり、一行にどよめきが広がったが、近くに潜んでいる気配もなく、予定通り現地研修を実施することができた（ちなみに、参加者全員分の国内旅行保険に加入済であった）。最後に、塘路湖畔に移動し塘路湖エコミュージアムおよびその道路向かいにある標茶町郷土館の展示物を見学した。郷土館では学芸員の辻ねむ氏による展示解説も行われた。バスは午後5時前後に予定通り釧路駅と釧路中心街に戻り、最後は釧路空港に6時前に到着して、今回の大会の全日程は無事終了した。

なお、大会前日の17日に、大会協賛イベント「釧路市立博物館学芸員による展示特別解説」が釧路市立博物館での午後2時30分から3時までの間実施され、18名の大会参加者が博物館に入館し、土屋慶丞・松本文雄両学芸員による展示解説に耳を傾けた。

この大会は日本生物教育学会が主催し、北海道教育大学釧路校 ESD 推進センターが共催したもので、文部科学省、北海道教育委員会、釧路市教育委員会の後援と、釧路市立博物館、北海道教育大学釧路校生物学教室、釧路生物談話会、釧路昆虫同好会の協力を得た。実行委員会には北海道各地から7名が参加し、2011年8月の発足

以来、連日のようにメーリングリストを通して連絡を取り合い、準備を行ってきた。実行委員会を代表して、大会に参加された会員諸氏、生徒諸君、地元自然史関係者、シンポジウムと現地研修会の講師の方々にお礼申し上げます。また、準備・運営に協力された関係機関、団体、個人の方々に謝意を表したい。学会正副会長ならびに本部事務局からは大会運営のための物心両面のサポートをいただいた。あわせて感謝申し上げます。

本報告書作成にあたり、参加者された多くの方から大会終了後お寄せいただいた感想文を参考にさせていただいた。また、掲載写真は、実行委員の生方、中島、八谷、小島によるほか、鳩貝太郎氏、片山舒康氏からも提供いただいた。ここに記して謝意を表したい。

大会プログラム

8月18日(土) ①研究発表・公開シンポジウム・生徒ポスター発表・自然史パネル展示

<口頭発表1 : A1-A5> 502 講義室

09:45-11:00 : [座長 : 上赤 博文 (西九州大学)]

A1. 09:45-10:00 「生物多様性の授業をつくるー高校生向け1コマ分の授業の実践と評価ー」、生方 秀紀 (北海道教育大学・釧路)

A2. 10:00-10:15 「高校科学部を中心とした環境教育学習の経過報告」、布施 達治 (千葉・行徳高校)

A3. 10:15-10:30 「ゲンジボタルの遺伝的解析と生息地域・生息環境に関する共同研究」、小川 隆 (青森・三沢高校)

A4. 10:30-10:45 「アカハライモリの繁殖生態についての研究」、秋山 繁治 (ノートルダム清心女子高校)

A5. 10:45-11:00 「地理分布の研究教材としてのクワキヨコバイ属 (昆虫綱 : 半翅目 : ヨコバイ科)」、奥寺 繁 (福岡・八幡高校)

<口頭発表2 : A6-A10> 502 講義室

11:20-12:35 : [座長 : 鳩貝 太郎 (秀明大学)]

A6. 11:20-11:35 「福岡地区南部の地名「御笠」の歴史と自然」、冷川 昌彦 (生物教育学会九州支部顧問)

A7. 11:35-11:50 「玉原ブナ林復元のための基礎的研究と保全活動」、片山 豪 (高崎健康福祉大学)

A8. 11:50-12:05 「小学校教育におけるダンゴムシの教材化の可能性」、○小川 麻里・小川 麻貴 (安田女子大学)

A9. 12:05-12:20 「生命はなぜそこに宿るのかー大学『生物学へのいざない』の授業から」、苗川博史 (東京学芸大学)

A10. 12:20-12:35 「中学校2年生における解剖実習と生徒の反応ーブタの眼球とイカの解剖の方法と成果ー」、津田 美子 (名古屋・鳴子台中学校)

<中学生・高校生ポスター発表：SP1 - SP6> 図書館棟 1階ロビー

13:00-13:50 :

SP1. 「静農生物部 3年間の歩み」、静岡県立静岡農業高校生物部（指導教諭：篠田 聖児）

SP2. 「名古屋市緑区を中心とした生物相の調査」、名古屋市立鳴子台中学校科学部[高橋・山門]（指導教諭：津田 美子）

SP3. 「ゲンジボタルの遺伝的解析と生息地域・生息環境に関する共同研究」、八戸北高校 SSH ゲンジボタル班[畠山・米内山]（指導教諭：小川 隆）

SP4. 「北九州のクワキヨコバイ属（半翅目：ヨコバイ科）の分布調査」、福岡県立八幡高校科学部（指導教諭：奥寺 繁）

SP5. 「湘南海岸における海岸植物の研究 I -ハマニガナの分布と海面からの高さについて-」、湘南学園中学校高等学校理科研究部[鈴木・植田]（指導教諭：横山 一郎）

SP6. 「群馬県みなかみ町赤谷の森におけるブナ・コナラの実生調査」、湘南学園中学校高等学校理科研究部[戸畑・平良]（指導教諭：横山 一郎）

<自然史パネル展示：NP1 - NP11> 図書館棟 1階ロビー

13:00-13:50 :

NP1. 「釧路地方・恋問砂丘上の海浜植物群落」、神田 房行（北教大・釧路）・正垣 喜美子（NPO 法人ネイティブくしろ）・水嶋 太郎・齋藤 優・三村 のり子・小船 未来（元北教大・釧路）

NP2. 「釧路湿原赤沼周辺の詳細植生図の作成」、川口 小百合（元北教大・釧路）・吉野 邦彦（筑波大・院・システム情報工学研究科）・神田 房行（北教大・釧路）

NP3. 「釧路市春採湖における水性植物の 8年間の変動」、神田 房行（北教大・釧路）

NP4. 「三人寄れば文殊の知恵！みんなで探る、標茶町天然記念物ベニバナヤマシヤクヤクの保全」、辻 ねむ（標茶町教育委員会 標茶町郷土館）

NP5. 「釧路市春採湖畔の植物 30年の観察～消えた植物、現れた植物～」、高嶋 八千代（道東野生植物調査会）

NP6. 「自然と人の共生のための湿原生態系保全及び湿原から農用地までの総合的管理手法の確立に関する研究」、野原 精一（国立環境研究所）・新庄 久志（釧路国際ウエットランドセンター）・高嶋 八千代（道東野生植物調査会）・蛭田 眞一（北教大・釧路）・生方 秀紀（北教大・釧路）・ほか

NP7. 「釧路湿原のトンボ群集～過去と現在～」生方 秀紀（北教大・釧路）

NP8. 「ミジンコから地域の環境を考える」、石井 温子・若松 靖男（元北教大・釧路）・蛭田 眞一（北教大・釧路）

NP9. 「タンチョウの繁殖期テリトリーの解消時期を示唆する観察例」、住吉 尚（釧路生物談話会）

NP10. 「釧路湿原美濃地区におけるキタサンショウウオの活動状況」、照井滋晴・前田潤（NPO 法人環境把握推進ネットワーク・PEG）・佐藤孝則（天理大学おやさと研究所）

NP11. 「博物館と昆虫同好会が連携した小中学生対象の昆虫観察会・講座等（仮題）」、土屋 慶丞（釧路市立博物館／釧路昆虫同好会）

NP12. 「春採湖畔のトビムシ相と日本未記録種のオビニシキトビムシについて」、須摩 靖彦（釧路生物談話会）

NP13. 「体験！消化の仕組み～咀嚼から排出まで～」山本 俊介、（北海道教育大学釧路校 理科教育プロジェクト）

NP14. 「児童生徒によるマリモの育成試験と阿寒湖の環境調査」若菜 勇、（釧路市教育委員会マリモ研究室）

<公開シンポジウム>「生物多様性と教育：釧路湿原から考える」 502 講義室

14:00-17:00： [司会: 生方 秀紀 (北海道教育大学釧路校教授)]

講演 1. 「釧路湿原の植生と自然再生」 神田 房行 氏 (北海道教育大学釧路校 ESD 推進センター長)

講演 2. 「釧路湿原の動物相と外来種問題」 蛭田 眞一 氏 (北海道教育大学釧路校教授)

講演 3. 「野生動物の命を守る」 齊藤 慶輔 氏 (猛禽類医学研究所長)

パネル討論

8 月 19 日 (日) ②釧路湿原一周現地研修会

現地研修講師：新庄 久志 氏 (釧路国際ウエットランドセンター主任技術委員)

高嶋 八千代氏 (道東野生植物調査会 代表)

08:30: 観光国際交流センター (釧路市幸町 3 丁目 3) 前、バス出発、

08:40: 釧路駅前ホテルオーシャン (釧路市黒金町 1 3 丁目 2 6-5) 前、バス出発

→ 湿原展望広場→ 温根内ビジターセンターの木道で湿原レクチャー・観察

→ 昼食→ 湿原自然再生地区見学→ 塘路湖畔および郷土館で湿原レクチャー・見学

17:00-17:10: 釧路駅前& 幣舞橋付近でバス降車 (札幌行 JR、釧路空港行連絡バス乗換え)

18:00: 貸切バス釧路空港着、全員降車)

<第 9 3 回全国大会実行委員会メンバー一覧>

生方 秀紀 (北海道教育大学釧路校) 委員長

田中 邦明 (北海道教育大学函館校) 副委員長

高桑 純 (北海道網走桂陽高等学校)

八谷 和彦 (拓殖大学北海道短期大学)

中島 憲 (北海道札幌稲雲高等学校)

小島 晶夫 (北海道上川高等学校)

一條 信明 (北海道釧路工業高等学校)

鈴木 誠 (北海道大学)